



祝　　辞

環境庁長官　大　石　武　一
國務大臣

近年、わが国は比類まれな高度経済成長を続け、生活面においても次第に豊かさを増しつつあります
が、その反面経済の急激な成長は、生活関連社会資本の整備の立ちおくれと相まって、われわれの生存
する環境に大きなひずみを生ぜしめる結果となっております。すなわち産業排出物を主とする各種の
排出物の大巾な増大による環境汚染の全国的な蔓延は、単に快適な生活環境を破壊するということにと
どまらず特定の地域においては、健康被害の発生までもみるにいたりました。いまや環境の悪化は国民
の一人一人にとって現実に日常生活の中で脅威を感じるまでとなり、国全体としてとらえてみても巨額
の損失をもたらしています。さらに、現在においては全世界的な環境汚染の進行が憂慮されており、環
境問題はまさに全地球的な規模でとらえなければならない段階にきております。このような背景から過
日「Only One Earth (かけがえのない地球)」を旗じるしにストックホルムにおいて開催された国連
人間環境会議において、無計画、無制限な開発は人間の環境を破壊し、生活の根本をおびやかすとの観点
から人間環境の保護、改善のためにとられるべき措置が多数の国々によって検討されたのであります。

政府としては、環境問題は国家的および国際的な重要課題であるとの認識にたって、関係法令の整備
をはかるとともに昭和46年7月に環境庁を発足させることによって体制の整備をあわせはかり、公害問
題の克服と自然環境の保護に銳意努力を傾注しているところであります。

このように、公害の防止は刻下の急務ですが、その分野が多岐多様にわたっているほか専門研
究機関が少ないこともあって、この面における民間の協力が広く望まれているところであります。かかる
現況下においてこのたび産業排出物の調査分析、処理知識の普及および処理技術の進歩向上を目的と
して財團法人、九州環境管理協会が発足されましたことは、誠に時機を得たものであり、その公害に取
り組む積極的な姿勢は高く評価されるものがあります。

貴協会が今後とも公害に関する知識技術の進歩向上に精進され、清浄な環境を保全することに尽力さ
れることにより末長く発展されることを心から期待する次第です。

昭和47年6月